



写真等無断転載禁止

東京湾最奥の海「三番瀬」は“守られた海” -市川市の「人工干潟造成計画」に物申す！ part1 -

市川緑の市民フォーラム事務局長 市川市 佐野 郷美

2001 年 9 月県議会の場で当時の県知事堂本氏は、県が進めていた「三番瀬埋立計画」を白紙撤回した。この計画を県が発表したのは 1993 年。この 8 年の間に、いろいろなことがあった。というか、何としても、この海を守りたい、埋立をやめさせたいと思う県民のとてつもなく強い精神と情熱、諦めない心は、県や市への意見書提出、広く三番瀬の素晴らしさを知ってもらうための観察会・講演会・シンポジウム等の開催、ガイドブック・写真集等の発行、そして「埋め立て反対 30 万人署名運動」など様々な活動を生み出し、最終的には、埋立計画白紙撤回を公約とする堂本知事を誕生させたのである。

私は教育現場で働く者として、“市民の力で地域を変えることができた”というこの素晴らしい事実を、若い世代に伝え続けてほしい、一人一人の力は小さいが、それを束ねることができたときに、市民は地域を変える大きな力を持つ存在であることを伝えるべきと思って、理系雑誌にもこの事実を投稿した（千葉県高等学校教育研究会理科部会発行「高校理科」第 47 号 平成 15 年版 P29～32）。

しかし、千葉県で起こった「海を守った」という事実は、「環境・生物を守らなければ人類の発展はない」とする“世界の潮流”の中で実現したものだと考えている。それは、具体的には、1971 年の「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」（ラムサール条約）、1972 年国連環境会議（ストックホルム会議）、さらに 1992 年の国連環境開発会議（地球サミット）と連なる流れである。特に、ストックホルム会議の中で採択された“人間環境宣言”の中で「地球環境問題は、人類最大の脅威であり、平和と経済発展と同様の最重要課題」と明記されたことは、産業革命以降の人類の人口爆発、それに伴うエネルギーの大量使用、その結果として生じた環境破壊に気づき、地球上での人類の生き方を変えようと

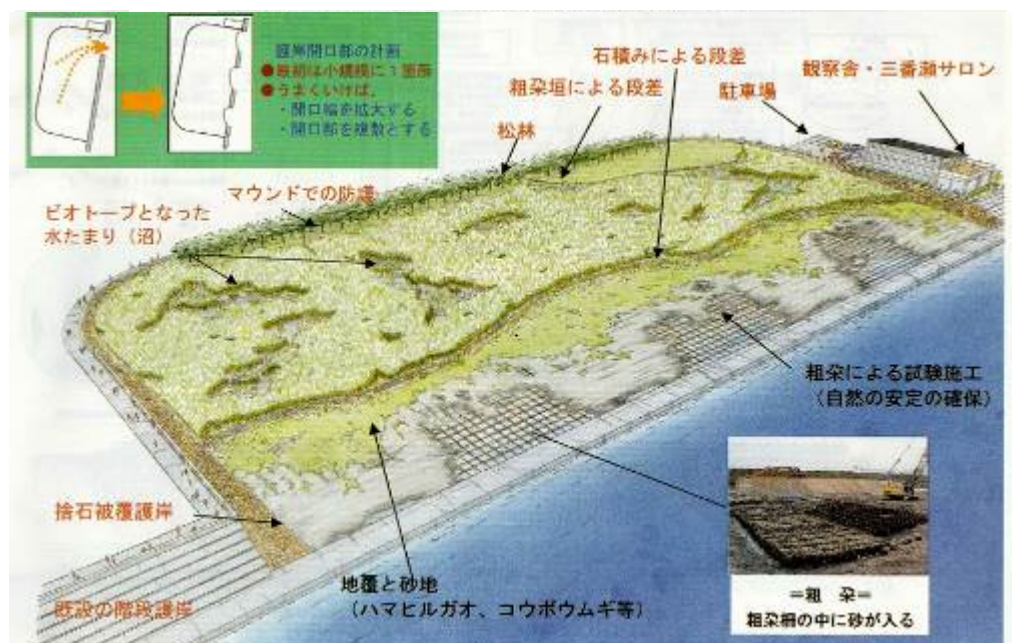


図 1.浦安市日の出地区での自然再生イメージ

堂本知事は、三番瀬埋立計画を白紙撤回した上で、それでも周囲の埋め立てで傷ついた三番瀬を、豊かな海として未来世代に引き継ぐために 2002 年「三番瀬再生計画検討会議（当時は“円卓会議”とも呼んでいた）」を立ち上げ、完全情報公開、市民参加のもとで、三番瀬の自然環境を漁業も続けながら豊かにしていく



ための公共事業を計画する意向であった。

では、三番瀬の自然環境をどのように再生させるのか？円卓会議は2年間の議論を経て、最終的に2004年「三番瀬再生計画案」を知事に答申した。ここでは、その詳細は述べないが、市民参加、完全情報公開のもとで行われた円卓会議がまとめたこの「三番瀬再生計画案」の中には、三番瀬をラムサール条約の登録湿地とすること、そして、「一度埋め立てたり干拓した場所を、再び海域環境に戻して海の生態系の機能を再生させる」という公共事業がアメリカ、イギリス、デンマーク、イタリアなどではすでに行われていたので、浦安市と市川市の埋立地の中で護岸を取り壊して、自然な海域環境を埋立地の一部に再生させるべきとしてそのイメージ図を掲載した(図参照のこと)。護岸前面に「人工干潟」を造成するイメージ図などどこにもないのである。

しかし、この答申を受けて千葉県は「三番瀬再生計画」を策定したのだが、埋立地をセットバックして陸と海との連続性を回復させるプランは盛り込まれなかった。

この円卓会議の委員として参加していた私としては、縦割り行政の中で、千葉県が”世界の潮流”に完全には乗り切れなかったことが本当に残念であった。

2023年12月24日印西市本埜の「白鳥の郷」での観察会を実施しました。2004年1月31日に6回目を実施して以来久しぶりの開催です。

9:30 京成佐倉駅に集合し、車で現地向かい
10:00 からの観察となりました。朝のうちはコハ
クチョウとオオハクチョウあわせて約750羽いた
そうですが、観察を始めたころには100羽ほどに
減っていました。周辺に餌捕りに行っていて、15
時ごろには帰って来るとのことでした。



コハクチョウとオナガガモ(2023 年 12 月 24 日)

それでも間近で白鳥が観察でき、次々と足で水面をけりながら飛び立っていく様子を観ることができました。また、長く保護活動に携わっている「本埜白鳥を守る会」の出山輝夫さんから活動の経緯などをうかがったり、野鳥研究者の越川重治さんに白鳥の生態やコハクチョウとオオハクチョウ、アメリカコハクチョウの見分け方などについてレクチャーを受けたりしました。

午後は、押田正雄さんのガイドで北印旛沼や坂田ヶ池でトモエガモの大群やミコアイサなどを観察し、充実した時を過ごすことができました。

(ちば環境情報センター 事務局)



参加者一同(2023年12月24日)

北印旛沼のトモエガモ

トモエガモは全長40cm、オスは頭部に緑色と黄色の巴模様がある小型のカモで、東シベリアで繁殖し、日本などで越冬する。数は多くなく県内ではまれな冬鳥として記録されている(千葉県自然誌本編6)。環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されているが、2010年代からこのトモエガモが大群で越冬している事例が増えてきた(Bird Research Water Bird News 2022年2月)。

国内では2004年の調査で約2千羽に減ったが、この10年ほどで急増。22年10月～23年3月に全国で調べたところ、



トモエガモ(北印旛沼 2024年1月29日)

約16万7千羽の越冬が確認された(朝日新聞デジタル2024年1月25日)。千葉県の印旛沼では特にその傾向が顕著で、今季、6万6千羽超のトモエガモが越冬している(朝日新聞デジタル2024年1月25日)。

佐倉市 田中 正彦
印旛沼のトモエガモの大群についてはマスコミも注目しており、フジテレビめざまし8【なぜ?】絶滅危惧種のトモエガモが千葉・印旛沼に大量飛来! 12月中旬には5万羽以上にも!? 竜巻のような巨大な渦を形成(23年12月25日放映)や前述の朝日新聞デジタルなどで紹介された。



トモエガモの群れ(北印旛沼 2024年1月30日)

増加の原因としては、温暖化で繁殖条件が良くなっていると考えられるが、北極圏の環境が変わってきていることが懸念される(朝日新聞デジタル2024年1月25日)。地球温暖化との関連についても今後注目していきたい。

新浜の話 72 ～潮風モニター～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

これも1997年のことでした。「潮風モニター」と名付けた調査をやったことがあります。

トヨタ財団の研究コンクールが終わったばかりの時期、1990年から3年ほどの間、「水色モニター」という調査をしました。1年でいちばん暑い7月20日から8月20日までの32日間、丸浜川の水の色を目で見て記録するというものです。月の3分の2は水の色が真っ黒、ふつうのどぶ

川色に戻る日が少ない、という時期に、どんな状況か見てみようということでやりました。30年を経過した今、水が真っ黒という日はさすがになく、どぶ川色(なまり色)に見える日もめったにないかも。しかし、見るからに汚らしい浮きカス(正体は藍藻類のユレモの塊)でおおわれる日はしばしば。

スロマン 作: 7月おき



韓国では忙しさのあまり、心の病になる人が多いので、アンチテーゼとしてこの競技が行われたそうです。

潮風モニターも、同じ日取りです。そのころは、三番瀬の埋立てが盛んに取りざたされた時期。海の埋め立ては経済的にも決して賢明ではない、と何とか示したいと思っていたのです。こっちのスーパは卵が 10 円お安いですよ、というのは生活上とても大事でわかりやすい情報。海の干潟は埋め立てるより、埋め立てない方が断然お得ですよ、と言えれば、こんなわかりやすいお話はありません。

要するに、大きな水面の近くは、市街地のまんなかよりも、夏に涼しいはず、ということを示したかったのです。クーラーの使用時間を 2 時間減らせれば、電気料金の節約になります。水面は大切な生活資源のはず。友人知人や実家の母まで動員して、最高最低温度計を設置してもらい、市川市内のあちこちや都内の例をふくめ、20 か所ほどで 32 日間の記録をとっていただきました。

結果はそこそこ面白かったのです。我が家を含め、行徳鳥獣保護区に隣接したお家では、最高最低気温とも若干低く、いくらか涼しい夏を過ごすことができていました。都内よりは行徳のほうがわずかに気温が低めでした。また、江戸川に近接したお家でも、市街地のまん中よりは最低気温がわずかに低めでした。戸建ての家屋と大きなマンションなどの集合住宅では明らかに様子が異なり、集合住宅では最高気温が低く、最低気温は少し高め、つまり 1 日のなかでの気温差が少なくなっていました。いわば建物の体温があるようです。そして、3 棟あった集合住宅では、海に近いところがやや涼しく、市街地の中央になるほど最高最低温度ともやや高くなっていました。

こうして書いてみると、予想はぴったり当たっていて、海や水辺に近いほど、夏の盛りにいくぶんか気温が低めで過ごしやすい、という結果が出たように見えます。ところがどうして。

まずは、いちばん基本となる最高最低温度計の「個体差」がありました。1～2℃の差など当たり前、という感じです。同じ部屋のテーブルに並べて置いて、それぞれの示す気温をチェックした上で、得られた結果に若干の修正を加えてはみたのですが、3 千円未満の安価な中国製のものでは、限界があったようです。

次はそれぞれのお家での設置場所。できるだけ同じような場所にさせていただいたのですが、間取りや直下が床か地面か、風通し、先に挙げた「建物の体温」等々、同じ条件などなきに等しいようなものでした。

更に致命的な事実。大きな水面の近くでは「最低気温」が低め、ということと言えるようですが、最低気温が記録されるのは日の出前。つまり、通常の生活時間帯ではないことが多いのです。「最高気温」が低め、でなくては、夏に涼しいという実感は得られにくいわけです。

素人がハンパに手を出しても、期待されるような結果は出ないなあ、というのが結論でした。それでも「水色モニター」も「潮風モニター」も、企画した私にとっては得難い体験になりました。協力者のみなさま、今更ながら、ありがとうございました。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2024年 3月号(第319号)の発送を 3月 6日(水) 10時から千葉市民活動支援センター談話室(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)にておこなう予定です。ただし新型コロナ感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局(小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所〒

ふりがな
氏名

Tel

E-mail

FAX

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記: NASA は 1 月 12 日、2023 年の世界の平均気温が 1880 年以降、最も高かったという分析結果を発表しました。地球沸騰化と表現された温暖化は勢いを増すばかり。トモエガモの増加もその証かもしれません。ティッピングポイントが近づいている(すでに到達?)といわれる中、COP28 は、初めて「化石燃料からの脱却」で合意しました。自分に何ができるのか、考えるだけではダメな時なのです。 mud-skipper

<小山町での活動>

☆第 222 回 小山町 Y P P 「あぜの手入れ」 2024 年 1 月 14 日 晴れ 報告：高山邦明

前夜の雪で谷津は一面雪景色。降り注ぐ陽ざしで解ける雪の雨だれの音を聞きながら、あぜの補修作業をしました。2 月にはニホンアカガエルの産卵が始まるので、あぜに開いた大穴をふさいでしっかり水が貯まるようにしました。そしてイノシシに掘り起こされて荒れたあぜも直しました。田んぼの泥を掘ると卵でお腹が膨らんだアカガエルや大きなドジョウが出てきて、おっと、ごめんね、と埋め戻してあげました。寒さで日陰のあぜが凍っているので田植えに向けた本格的な整備は先になります。参加者 4 名（大人 3 名 高校生 1 名）

【谷津田・季節のたより】 2024 年 1 月

<下大和田町> 報告：田中正彦

1/ 7 中野操車場前の空き地でイソヒヨドリ雄 1 羽を確認（右写真）

1/20 下大和田畑プロジェクトで麦ふみ実施。



<小 山 町> 報告（た：たんぽぽ、赤：赤シャツおやじ、高：高山）

1/ 3 コジュケイのレギュラー家族、新年初遭遇（た）

1/11 ハシブトガラス 3 羽がノスリを威嚇、モズがキセキレイに襲いかかるが失敗（高）

1/14 ジョウビタキ雄が枝から田の様子をうかがう。ルリビタキ 2 羽は畔のブッシュで追いかけて（赤）

1/20 30 羽近いキジバトの群れが田んぼで摂餌（最近大きな群れをよく見かける）、久しぶりにツグミとクサシギの姿を見る（高）

1/27 シジュウカラ番が楽しそうに飛び回る（た）

【イベントのお知らせ】主 催：NPO 法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

<下大和田谷津田>

・森と水辺の手入れ

日 時：2024 年 2 月 18 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天中止

内 容：雑木林を維持するために、アカメガシワやイヌザンショウなどの低木の処理を行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第 290 回 観察会とゴミ拾い

日 時：2024 年 3 月 3 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天決行

内 容：ニホンアカガエルの卵塊調査を中心に、春を迎える谷津を巡ります。シダ植物の研究者が参加予定で、シダに関する興味深い話もうかがえると思います。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴（通常の）、帽子、ゴミ袋、弁当、敷物

参加費：100 円

・第 301 回 下大和田 Y P P 「野草を食べる会」

日 時：2024 年 3 月 23 日（土） 9 時 45 分～12 時 雨天中止

場 所：下大和田 わいわい広場

内 容：下大和田に生育する「食べられる野草」を採取、てんぷらやお浸しなどにして春の恵を味わいます。

持ち物：動きやすい服装、長靴、お弁当、お椀、飲み物、敷物

参加費：300 円（小学生以上）

<小山町谷津田>

▼第 223 回 小山町 Y P P 「あぜの手入れ」

来期に向けた田んぼの整備を行います。

日 時：2024 年 2 月 18 日（日） 10 時 00 分～ ☆小雨決行

場 所：小山町谷津田

上記に限らず、参加ご希望の方は、赤シャツ親父（e-mail: tomizo_i@nifty.com）までご連絡下さい

